

## う・わ・べ

川口基督教会牧師 司祭 ステパノ 柳 時京

ある女性作家の経験談をご紹介します。

電車に乗って座っていると、彼女の隣の席が空き、そこに太った中年の男がすばやくお尻を突き入れました。さっきまでゆったりしていた席がいきなり狭くなり、しかも彼のお尻に自分のスカートの裾が押されてしまいました。せっかとおめかしのファッションなのにと内心思いつつ、眉をひそめながらスカートを引っ張ってもびくともしませんでした。よっぽど無神経な男だと思い、やむなく彼に声をかけたら、お尻をちょっとあげてくれましたが、お詫びも何も言いませんでした。

それだけではありませんでした。太った身体で、腕で隣の人に押し寄せるような彼の姿勢のせいで不快感が増していきました。彼女は、他の席に移ろうかと思ったものの、まだ先は遠く、乗客も増えてきていました。その彼が、今度はアクビをしました。変な音まで出しながらアクビをしたので、居眠りしていた向い側の人が目覚めるほどでした。数人が彼を凝視しましたが、彼はまったく気にしないようで、知らんぷりでした。

座席運が悪いと思い、彼のことを忘れようと、乗ったばかりの若い女性を見つめました。この女性は澄んだ肌色で、綺麗な帽子をかぶっていました。どこかゴージャスな雰囲気的女性で、おしゃれな服装に整った気品が感じられました。

その時でした。隣の無神経な男が立ち上がり、その女性に声をかけました。こちらへどうぞと、自分の席をゆずるようなふりでした。綺麗な女性だから露骨におべっかして気に入ってもらおうとするのか！すでに50歳を超えたような男が20代の女性に席を譲るのは、あまりにも不自然で、下心が見え見えではないか！もうまったく！

しかし、拒むかと思った女性は、彼に軽く目礼をしてから席に座りました。そこで、この作家は、女性が身ごもっていたことがわかりました。しかも3歳くらいの娘も一緒でした。女性は娘を膝に座らせ、帽子を持たせました。2人が座っても座席はより楽になり、親子の様子を見ながら、彼女は気分が楽しくなって来ました。そして、より嬉しいことは、先の男に対する思いが変わってきたことでした。無神経な男というのは、自分の思い違いのようでした。改めて彼を見つめたら、頼もしい体格で、席を譲ったことで満足げに微笑んでいるようでした。それもそうで、1人が譲ったことで3人も座れたからです。彼女はその男の微笑みが忘れられませんでした。

私は、最近アメリカでしきりに起こっているアジア系の人々への差別事件のニュースを聞きながら、上の話を思い出しました。実は自分にも、この女性作家の経験と似たような経

験がきつとあると思います。身なりや肌色、出身地や国籍、性別や職業など、人としての本来の姿ではない要素で、私たちは何かしらの判断をしてしまいがちです。差別はそういう予断や判断から始まります。差別しないために、また差別されないためにも「**うわべだけで裁くのをやめ、正しい裁きをなさい**」(ヨハネ7:24)というイエス様の教えを、改めて肝に銘じたいと思います。

(川口基督教会 牧師)